



華麗なバロック様式の「Kempinski Hotel Cathedral Square, Vilnius」の正面ファサード。バルト3国の一つ、リトアニアの首都ビリニュスの旧市街に佇み、この地域としては屈指の伝統と格式を誇る迎賓館のホテルである



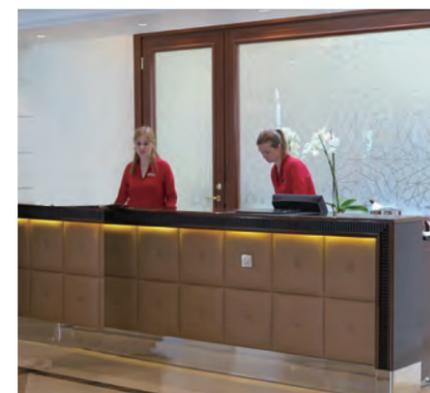
メインダイニング「Restaurant Telegrafas」から望むカテドラル「ビリニュス大聖堂」と付属するベルタワー。ホテル名称はビリニュスのランドマークである、このカテドラル広場「Cathedral Square」に由来する



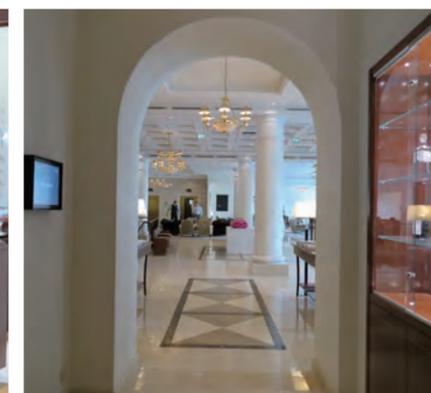
ライトアップされた正面ファサード。100年以上前に建築されたネオ・クラシックスタイルの歴史的建造物である



正面玄関に表示されたホテル名称「Viesbutis Kempinski Hotel Cathedral Square」。「Viesbutis」とは現地言葉でホテルという意味



ケンピンスキーでお馴染みの“赤い制服”。「The Lady in Red」の女性スタッフ



館内はヨーロッパスタイルの気品が漂う



筆者 **小原 康裕**
ホテルジャーナリスト
慶応義塾大学法学部法律学科卒。74年 Munich Re 入社。85年築地原健樹代表取締役。2001年投資顧問会社原健設立、代表取締役 CEO。JHRCA、日本ホテルレストランコンサルタント協会理事。
www.jhrca.com/worldhotel
現在、筆者のホームページで「世界のリーディングホテル」を連載中。私のファーストアルバム「World's Leading Hotels」はお陰様で好評を頂いておりますが、写真集第2弾「World's Prestige Hotels 世界の名門ホテル」を去年6月に発刊いたしました。独自に取材した世界各地の最高峰ホテルを華麗な写真と共に解説しております。ファーストアルバムに引き続きご愛読して頂ければ幸いです。



ヨーロッパスタイルの気品が漂うロビーラウンジ。2012年に全面改装された Kempinski Hotel となる前は中央通信局として使用されていた



バーラウンジ「Le Salon Bar」のバーカウンター席



スパ施設「Kempinski The Spa」のレセプション。スイミングプール、トレーニングジムなど充実している

世界にはまだまだ日本人が訪れていないホテルがある。このコーナーではホテルエグゼクティブが知っておくべき「世界のリーディングホテル」を紹介する。これまで多くのホテル紹介本が出版されてきたが、そのほとんどが現地のホテルと事前に取材の連絡を取り合い、プロのカメラマンや通訳、そのほか大勢を連れ立っての大名取材であり、宿泊は省略といったことも多々であった。本連載では、著者自身が長年にわたる個人旅行中に自分の目で感じ取り、コメントを書き込み、自分のカメラで思いのままに撮ってきた写真を掲載する。

Kempinski Hotel Cathedral Square Vilnius

「Kempinski Hotel Cathedral Square, Vilnius」はバルト3国の一つ、リトアニアの首都ビリニュスの旧市街に佇み、この地域としては屈指の伝統と格式を誇る迎賓館的ホテルである(以下、ケンピンスキー/CS)。正面ファサードは華麗なバロック様式で、100年以上前に建築されたネオ・クラシック



メインダイニング「Restaurant Telegrafas」の美しいテーブルセッティング。レストランの名称は、もともとの建物であった中央通信局「Central Telegrafas」に由来する



メインダイニング「Restaurant Telegrafas」のエントランスに立つ案内嬢



ロウソクの焔が揺らめく美しい燭台がテーブルの気品を高めている



スペイン出身のシェフの Javier Lopez 氏が腕を振るう。料理の質はもちろん、店内の雰囲気も秀逸である



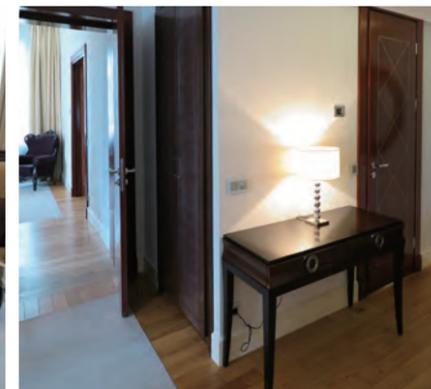
ダイニングに隣接したバーラウンジ「Le Salon Bar」では、軽食とアフタヌーンティーが楽しめる



「Grand Suite Room」のベッドルーム。約 80㎡の広さを持ち、窓からは大聖堂とベルタワーが望めるエレガントなスイートだ



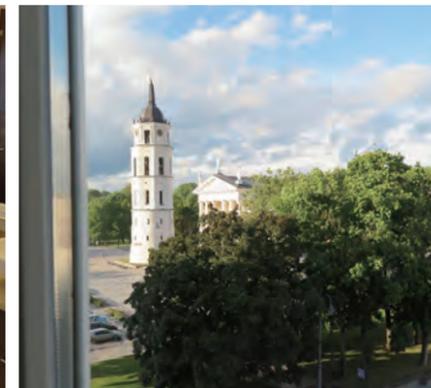
「Grand Suite Room」の端正なリビングルーム



スイートルームの玄関ホワイエ



バスルームは十分な広さを確保し使い勝手も良好だ



部屋の窓からは目の覚めるような光景が広がる

スタイルの歴史的建造物だ。館内もヨーロッパスタイルの気品が漂う。1948 年以来、建物は中央通信局として使用されてきたが、2012 年に全面改装されて Kempinski Hotel となり地元の評価はすこぶる良い。ホテルの名は街のランドマークであるカテドラルと付属するベルタワーが建つ広場「Cathedral Square」に由来する。

ビリニュスはバルト 3 国の首都では、唯一内陸に開けた緑豊かな街である。タリンやリガとは異なり、ハンザ同盟の影響を受けずに建設されたため、天を突くゴシック教会の尖塔はここでは見当たらない。その代わり、優雅なバロック様式の建造物が多く、教会も柔らかな曲線のカトリック教会が姿を現し、ビリニュスは“バロックの街”とも評される。街を歩くと、とにかく教会の多さに驚かされる。極端な話、ホテル、公共の建物、集合住宅以外は全部、教会と言っても過言ではない。旧市街は 1994 年に世界遺産に登録された。また、2009 年には欧州文化首都に選ばれたこともある。

ケンピンスキー /CS はスイートを含め全 96 室の豪華なホテルである。エントランスロビーはゆったりとした空間を確保し、バーラウンジ、ダイニングへと動線がレイアウトされている。今回は「Grand Suite Room」を紹介したい。約 80㎡の広さを持ち、窓からは大聖堂とベルタワーが望めるエレガントなスイートだ。メインダイニング「Restaurant Telegrafas」はもともとの建物であった中央通信局の名に由来し、スペイン出身のシェフの Javier Lopez 氏が腕を振るう。料理の質はもちろん、店内の雰囲気も秀逸で、カテドラルスクエアの風景も堪能できる。隣接したバーラウンジ「Le Salon Bar」では軽食とアフタヌーンティーが楽しめる。スパ施設 Kempinski The Spa はスイミングプール、トレーニングジムなど充実している。

リトアニアは残念ながら日本では情報が希薄だが、国内の見所は多い。リトアニア第 2 の都市カウナスは、ソ連邦に併合される以前のリトアニア共和国の臨時首都であって、そこに“日本のシンドラ”としても有名な杉原千畝氏の記念館がある。ホスピタリティーあふれるケンピンスキー /CS を起点として、欧州の北方に位置するバルト 3 国探訪の旅に出掛けるのも一興である。